



健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
土屋 誉

がん治療には手術、薬物療法(化学療法、分子標的薬、ホルモン療法を含む)、放射線療法があり、これらは三大療法と呼ばれていますが、今回は、温熱療法というまだ広くは知られていない治療法のひとつを紹介いたします。

温熱療法は聞き慣れない言葉だと思いますが、がん細胞が正常細胞に比べて熱に弱いという性質を利用した治療法です。がん細胞は42.5度を堺に致死効果が高まることから、電磁波を用いて体内や体表面を42から43度に加温し、がん細胞の塊を死滅させる効果を発揮する装置を使用します。電子レンジで加温するのと同じ原理です。これは通常と同様の治療法として保険診療での治療法として認められています。治療時間は約1時間で、薬物療法や化学療法などのように日常生活が制限される副作用はありません。

また、化学療法や放射線療法に温熱療法をプラスすることによる相乗効果も認められています。化学療法を使い切った患者さんでも施行可能ですので、心の支えにもなるのではと期待されています。当院では今年2月より、宮城県の病院としては初めて温熱療

がんの温熱療法について

法の装置を導入し、治療を開始しました。週に1回外来に来ていただき、8週連続で行うスケジュールです。今後温熱療法を選択する患者さんは増加するものと予想しています。

日本人が一生のうちにかんと診断される確率は男性65.5%、女性51.2%と2人に1人以上で、がんで死亡する確率は男性26.2%、女性17.7%といわれています。がんの罹患数は男性では前立腺がん、大腸がん、胃がん、肺がんの順ですが、女性では乳がん、大腸がん、肺がん、胃がんの順です。また、死亡数の順位は男性では肺がん、大腸がん、胃がん、膵臓がん、女性では大腸がん、肺がん、膵臓がん、乳がんの順です。がんの種類によっても悪性度かなり異なるため、罹患数と死亡数の順番が異なります。いろいろな治療法が考案されていますが、やはり早期発見、早期治療に勝るものはありません。

〔仙台オープン病院

／宮城野区鶴ヶ谷



相乗効果

がん細胞



杜の都信用金庫は
「地域社会発展のために設立された地元の信用金庫」
であるという原点のもと、
“もっともっと、「しんきん感」向上宣言!”
のスローガンを掲げ、
地域やお客さまとの信頼関係を
より強固なものとして、
これまで以上に身近な“もりしん”を
目指してまいります。

Shinking with you.



もっともっと、「しんきん感」向上宣言!
杜の都信用金庫

